

Ouho kai - Kaihou

桜圃会 会報

編集発行：山口県立大学同窓会桜圃会

〈事務局〉〒753-8502 山口市桜島3-2-1

TEL&FAX083 (925) 7485 振替口座01570-2-25095

メールアドレス ouhokai@yamaguchi-pu.ac.jp

印刷：(株)マルニ

Vol.56

平成20年3月1日発行



平成19年12月16日
「桜の森」施肥作業

「桜の森」に 花を咲かそう

会長 吉村 京



昨年の師走半ばの日曜日、母校の看護学部棟前に、防寒着に軍手姿の一団が集結しました。「桜の森」に寒肥を施すために集った江里学長はじめ、副理事長、副学長ほか、職員と学生、それに桜圃会会員の皆さんでした。

「桜の森」は、2001年に母校の創立60周年記念事業の一環として、新キャンパス予定地に2001本の桜の苗木が植えられました。

既に立派に成長して花をつけるものもありますが、人間同様環境や栄養の状態によって、成育や開花に差が出始めています。「幼木時の下草刈りや施肥等の管理が大切」との専門家の指摘で、まず「寒肥やり」から始めることになり、桜圃会としても桜の森育成事業の一環として、大学と学生と一体となって取り組むことにしました。

当日は、「作業班」と「炊き出

し班」に分かれ、作業班はバケツ片手に桜の木一本一本の根元に二握りずつ肥料を撒いて廻り、炊き出し班は栄養学科の教職員と学生を中心に担当しました。和気あいあいのうちに予定より早く終わる手際の良さでした。

作業の後は、全員で炊き出し班の用意した玄米と五穀米の「おむすび」と温かい「豚汁」に「エコ漬物」を試食しながら「来年の桜の時期が楽しみ」「さらに輪を拡げていきましよう」などと昼食は和やかな交流の場となりました。

この会報が皆様のもとに届く頃には、厳しい冬に耐えた桜の蕾もほころび、美しい花が咲くことでしょう。

そして、ここ宮野桜島の広大な大地にキャンパスの移転整備が実現し、満開の「桜の森」で人々の憩う日もそう遠くないことを願いつつ、皆様のご参加をお待ちしております。
(昭和31年被服卒)

公立大学法人化2年目を

終えるに際し

理事長(学長) 江里 健輔



桜園会員の皆様におかれましては如何お過ごしでしょうか。

さて、本学が公立大学法人となり、2年目を終えようとしています。皆様にはここに、順調なスタートであると誇りを持ってお伝えできると思います。

特筆すべきその一点は、本学は公立大学法人として201項目の中期計画を掲げていますが、平成18年度について、山口県公立大学評価委員会より「十分な達成が見られる」と評価されたことです。これにはひとまず、ほっとしていま

す。何故ならば、この評価が県からの交付金額に反映されるからです。

もう一点には、平成十九年度「文部科学省大学教育改革支援プログラム」において、本学より申請したプロジェクトが五題も採択されたことです。文科省は現代GP(GP=Good Practice)など、各種審議会からの提言等、社会的要請の強い政策課題のテーマを掲げており、それに従い申請することになります。

①現代GP：持続可能な社会



平成19年11月 国道9号線沿いに山口県立大学地域交流スペースYucca (ユッカ) オープン

に繋がる人的財産の育成

②現代GP：やまぐち多世代交流・地域共生授業の展開

③特色GP：「重層的学生支援教育」による福祉人材養成

④学生支援GP：総合的人間関係力を涵養する学生支援

⑤社会人GP：行動変容を促進する栄養指導法を身に付ける栄養士キャリアアップ支援プログラムの開発

採択されたこれらに対し、本学には3～4年の間で総額約2億5千万円の支援費が交付されます。本学のような規模の大学が、一度に五題も採択されるのは極めて稀なのです。

新生山口県立大学は豪勢ではありませんが、このような躍進に至ったのは、1万余人の先輩諸氏が、肅々と地道に育まれた60年以上の伝統と歴史の結果だと確信しています。皆様に心から感謝いたします。

これからも、本学の理念を着実に達成し、自主的かつ自立的な大学運営に向けて、教職員一同一丸となつて努めていく所存です。今後ともご支援、ご鞭撻くださいますようお願い申し上げます。

県大生はこんなに元気です！

学生支援部副部長
看護栄養学部教授
人見 英里

以前より県大生はさまざまな活躍をしていますが、今年度も新しく幾つかの特記すべき活動が展開されました。

桜園会の総会でも販売された「YPUクッキー」ですが、このクッキーの開発は、平成18年度に本学の研究・創作活動助成をもとに、生活科学部栄養学科・環境デザイン学科の学生と教員が共同で行なったものです。若者ならではの斬新な着想で、山口県産「ほづ、たけのこ」はなつこりーを使ったオリジナルクッキーが開発できました。また、18年度より学生支援部では学生たちが自身で企画・展開する活動を公募し活動資金を助成する「YPUドリームアドベンチャープロジェクト」を行なっています。

今年度は、「ゆかたで華麗に踊り隊(山口祇園祭・市民総踊り参加)」「えこチャリ(県立大学自転車再生・地域再生プロジェクト)」「ぶちうま☆ランチ+YPU☆One Plate Lunch☆

Project(学生食堂の改革)」「YPU「こんなん知っちゃう?」HP作り」「新生活応援 Eco Cooking レシピ集を作ろう!」が採択され、活動が繰り広げられました。このような学生の活躍の実績は、文部科学省からも高い評価を受け、平成19年度「学生支援GP」として採択されました。桜園会の皆様には、このような学生の活動をこれからも暖かく見守りご指導いただきますよう、この場を借りてお願い申し上げます。



「YPUクッキー」



講師の中村哲先生

公開講座

「医者が井戸を掘る理由」から

平成19年11月20日(火)、ベシヤワール会現地代表の中村哲医師により「医者が井戸を掘る理由」と題して講演が行われた。当日、朝八時に福岡空港へ帰国、その足で山口に来られ、約800人の会場一杯の人々を前に、疲れも見せず、スライドを交えながらの熱弁であった。

1984年、アフガニスタンへのハensen氏病治療援助の為に赴任されたものの、現実には様々な感染症や飢餓との戦いであった。1980年代の対ソ連とのアフガン戦争、2000年夏の大干ばつ、2001年10

月に始まったアメリカ空爆、これらによつて多くの難民を生み、飢餓や病気で死んで行く人達。彼らを救う為には、まず清潔な水と食糧の確保が必要である

との認識から、現地の人達や日本人ボランティアと協力して井戸を掘ることを決断された。また荒れた農地を潤す為に水路を建設。今では1500ヶ所の井戸と、13キロまで伸びた用水路のおかげで、青々と繁る田畑が蘇り、農民も村に帰る事ができるようになった。しかしながら、干ばつは半ば恒常的に続き、テロによる一般住民の犠牲はとどまることを知らない。

日本で報道されているアフガニスタンの情勢は、ほとんどが首都カブールの様子で、そこは本当に特別な地域であり、大部分は山間の村に住む貧しい農民や遊牧民である。そういった人々にこそ支援が必要で、外国人の一方的な価値感を押しつけること無く、地域の文化、習慣、風俗を尊重し、その地方のやり方で協力しあつて進めて行く事が大切だと、聴講者一同拍手の中で講演を終えられた。

(昭和44年国文卒 西嶋記)

第12回支部長・理事合同会議

風薫る5月。総会前日の5月19日、山口県立大学大会議室に於いて、19支部22名の支部長及び関係者と19名の理事の参加を得て、支部長理事合同会議を開催。まず前半の支部間の情報交換では、昨年創立30周年記念行事を実施した福岡支部が、刷りたての「支部だより」記念号を前に、発行にまつわる苦労話を披露。これをきっかけに各支部の悩み事、また工夫どころなど貴重な情報交換が行われた。どこの支部も若い世代が支部総会に参加してくれることを切望。より多くの若い世代を支部活動に勧誘する取り組み

は、在学中から、桜園会との繋がりを深めていくことから始めると強く感じた。

後半は、大学との初めての情報交換会で、独立行政法人化2年目の大学の現状説明があつた。

財団法人大学基準協会による第三者評価(認証評価)で大学基準に適合していると認定。平成20年度入学者選抜から、従来の選抜方法に加えAO入試を実施(全学定員の5%)。大学広報誌・ホームページ・PRビデオ制作配信など各種メディアを利用して積極的に情報発信。「YPUクッキー」の開発。最後に三島副学長が「同窓生が卒業した学科・専攻は学部・学科の再編等で姿を消し、大学名変更や共学化と大学の姿は変化しているが、同窓生によって培われ

た伝統や精神はしっかりと受け継がれている。今後共一層の御支援をよろしくお願い致します」としめくくられた。

(昭和49年保育卒 石崎記)



大学との情報交換会

人事異動

■退職

森口 覚	大学院健康福祉学研究科教授
下笠 徳次	国際文化学部教授
川添 容宏	社会福祉学部教授
猪又 徹	生活科学部教授
安藤 真美	生活科学部助教授
赤井由紀子	看護学部助教授
牛之濱久代	看護学部講師
石川 正一	附属地域共生センター講師
高杉美佳子	生活科学部助手
楊井 理恵	生活科学部助手
大倉 福恵	附属地域共生センター助手

■新任

岩本テロヨ	看護栄養学部教授
慎 愛重	大学院健康福祉学研究科教授
林 炫情	国際文化学部准教授
浅羽 祐樹	国際文化学部講師
山口 光	国際文化学部講師
小迫 幸恵	看護栄養学部講師
中本 朋子	看護栄養学部講師
弘津 公子	看護栄養学部講師
吉木 伸行	附属地域共生センター助手

■事務局職員転出

田中 久雄	身体障害者福祉センター
石津雄一郎	統計分析課
池永 早苗	旅券センター
山下 隆志	農林水産部団体指導室
崎重 智子	退職
貞森 直美	新産業振興課
林 由紀子	会計課
山田 晃広	道路整備課
藤谷 昭	港湾課

■事務局職員転入

松下 良三	総務部長
澤田 満	教務グループリーダー
松田 一宏	経営企画室主査
藤井 健二	総務グループ主査
塩田 裕子	総務グループ主事
光本 恵子	教務グループ主任主事
松若 政男	教務グループ主任主事
田中 清弘	学生支援グループ主事

平成19年度 桜園会総会開催

第63回桜園会総会が、平成19年5月20日(日)ホテルニュータナカに於いて、118名の出席を得て開催されました。

桜園会会長より「法人化に伴い経営審議会の委員に任命され会の方向性を伝えられる様になりました」と挨拶があり、続いて名誉会長江里健輔学長から「桜園会にける期待は計り知れず、地域社会に生きる大学となるよう努力していきたい」とのお言葉がありました。

講演は、県立大学看護栄養学



講師の田中愛子先生

部教授田中愛子先生より「いきいき生きるということ、命を考えるということ——ターミナルケアの視点から——」と題して、命の重みと、これからの生き方を考えさせられる貴重なお話をして頂きました。

先生は、臨床ナースとしての経験を基にターミナルケアを研究されていて、現在ではセカンドオピニオンを利用して自分に合ったターミナルケアを選び、様々な苦痛を軽減する緩和ケアが受けられるようになったことを説明されました。更に命については、自然と共に生き、日常生活の中で死について話し、子供の頃から命の大切さを教え



韓国の民俗芸能「サムルノリ」の演奏

ることが大事であること、いきいき生きるということは、笑いとユーモアを持って自分らしく一日一日を大切に最後まで生き抜くこと、笑いは免疫を高める要素であると話されました。そして「喜べば喜びごとが喜んで、喜び集めて喜びにくる」と有意義なお言葉を下さいました。

レクリエーションでは、県大生によるサムルノリの迫力ある演奏に引き込まれ、会は終了致しました。

(昭和41年被服卒 澄川記)

平成20年度 桜園会総会の案内

■日時

平成20年5月25日(日)

午前10時～午後2時

■場所

ホテルニュータナカ

山口市湯田温泉2-6-24

TEL083(923)1313

■講演

(演題)

「地域文化と国際交流に着目を得たファッションの創造と発信」

(講師)

山口県立大学国際文化学部
教授 水谷由美子先生

■会費

5,000円

当番幹事はS 37・42・47・57・62・H 4・9・14・19年卒業のクラス幹事さんです。

*出席ご希望の方は、5月14日(水)までに同窓会事務局までお知らせください。

平成18年度桜園会会計収支決算書 H19.3.30(単位:円)

科目	18年度決算額
収入	
繰越金	4,534,535
経常会費	3,255,000
本部入金	5,316,790
事業負担金	740,000
雑収入	20,126
合 計	13,866,451

支出	
総会費	804,626
会議費	288,562
支部援助費	836,700
事業費	1,452,350
(会報作成)	1,236,452
(公開講座)	215,898
入会記念品費	308,000
桜園会賞費	249,850
旅費	856,470
通信費	106,367
印刷費	13,650
事務局運営費	2,209,465
情報管理費	199,236
備品費	645,960
消耗品費	176,279
雑費	159,530
予備費	0
合 計	8,307,045
次年度繰越金	5,559,406

事務局からのお願い

同窓会の運営は皆さんの会費で成り立っております。会費の納入にご協力下さい。

◆桜園会本部年会費納入(年間千円)をお願いいたします。

*65歳以上の会員で希望される方は終身会員になることができます。終身会費は一括払いで一万円です。

◆振込用紙には会員番号(封筒の宛名シール右下)・卒業年・科・勤務先・送金明細・郵便番号・住所・氏名(ふりがな)を必ずお書き下さい。コンピューター処理を行いますので、郵便番号及び住所(番地、建物名、部屋番号まで)を正確にご記入下さい。

*住所、勤務先の変更、改姓の際もお知らせ下さい。

◆ご連絡・ご質問の窓口

住 所 〒753-8502 山口市桜島3-2-1
山口県立大学同窓会桜園会事務局

TEL&FAX 083(925)7485(職員在室日は水・金曜日 10時～17時)

E-mail ouhokai@yamaguchi-pu.ac.jp

山口県立大学のホームページからアクセスできます。

(http://www.yamaguchi-pu.ac.jp)

*桜園会では、個人情報保護法を遵守し、会員の皆様の個人情報につきましては、慎重に取り扱い適切に対応してまいります。

第七回桜園会賞

受賞報告

第7回
桜園会賞

桜園会功労賞を 受賞して

長阿彌美穂子

8月末北九州支部会に学長先生のご出席を頂き、母校の様子を伺い、ビデオで拝見してその発展振りを喜んでおりました。その矢先に「功労賞に推薦」との声をかけて頂き、私ごときにと辞退申し上げましたのに、誠にありがたく光栄に存じます。

北九州支部が現在の形で活動を始めて10年、私はその以前の十数年間を、本部との連絡、名簿の作成、支部会開催等細々と務めさせて頂き、その間には、桜園会館の



功労賞授賞式場にて

落成、看護棟の完成等母校の進展の祝事にも出会い、感慨ひとしおでございます。

私的には教職32年、主人・母の介護7年の後、60才にして地域の社会福祉事業に関わって十数年、思えば人生の4分の3が、総て母校で培われた知識に基づいたものであり、それが私の生甲斐になっていたのだと、今更のごとく山口県立女専で学んだ月日に思いを馳せ、感謝の念を覚えます。

青年期はすばらしい躍進期だと思えます。その時期に得た知識は老年期に入った今も消えることなく生きています。

生涯山口県立大学卒という誇りを持つて社会に貢献して行きたいと思っています。

山口県立大学の益々の発展を祈念いたします。

(昭和19年家事卒)

第7回
桜園会賞

奨励賞を受賞して

えこチャリリーダー

郭 伝瀬

この度、桜園会奨励賞の受賞を誠に嬉しく思います。この賞は今まで一緒に一生懸命取り組んできたみんなへのものだ



放置自転車の再生作業

思います。

私は中国の北京から来た留学生です。2007年に「日中友好の種を撒いていこう」をテーマにし、単独自転車で日本を一周してきました。旅に出て、日本の豊かさにとっても感嘆した一方、「もったいない」という意識を強く感じさせられました。

大学に戻って放置自転車問題に気付いた時、旅で学んだことを踏まえて何か自分出来ることとはないかと考えました。そこ

で、先生達の助言を頂きながら、校内で「自転車工房—えこチャリ」というプロジェクトを立ち上げました。これは放置自転車を再生し、必要な人たちにシェアリングしていくというものです。

「えこチャリ」を通じて、「直せばまだ使えるのに何故捨てて

しまうのだろうか...もった物の大切さを知ってもらいたい」とみなさんに考えてもらおうことができるようになりました。「これから「えこチャリ」が山口県立大学の伝統になるようこの小さな活動を続けていきます」とメンバーが言ってくれました。

今後は、宮野駅の放置自転車問題を含め、地域の問題解決へと拡げて行きたいと思っています。

(国際文化4年)

第7回
桜園会賞

奨励賞を受賞して

KIMONOサークル

山本 真衣

この度桜園会奨励賞を受賞しました、山口県立大学KIMONOサークルです。私達の活動に対し高く評価して頂いたことを大変光栄に思います。

当サークルは2005年に、日本人である私達が「きもの」を通して出会った人達とのつながりを大切に、日本の文化を世界へ発信できるようにという願いを込めて結成されました。学内での定期的なサークル活動(着物の着装・他装やマナー講座等)を基盤として、水無月祭におけ



厚生棟和室での練習風景

る本学学生への着付け教室、グローバル学生交流事業での留学生への着付けや日本文化の紹介、きもの装いコンテストへの出場、ちようちん祭りや祇園祭での着付けボランティア等を行ってきました。また、特別な機会の活動として、アメリカセンター大学との学術交流協定締結時の調印式のお手伝いや、「国民文化祭やまぐち」のきものファッションショーへの参加等、積極的に活動してきました。

今後は、更なる地域の人達との交流を通して古き良き日本の文化や生活を大切に、日本の心に通じる「きもの心」を発信する為に更に幅を拡げて活動していきたいと思っています。

(社会福祉2年)

塩見隆行先生を偲んで

昭和49年保育卒
岡村 恵子

塩見先生ご逝去の報は、山口市内系米に住む友人を通して知りました。94才の生涯を全うされた先生は、近所の子とも達から、「優しいおじいちゃん」と慕われていたそうです。退職後、病に倒れられたそうですが、懸命のリハビリを続けてお元気になられ、最後まで秋吉台へ苔の採集に出かけられていた、とも聞きました。

私は、一瞬のうちに学生時代にタイムスリップしました。そして、あのトレードマークとも言える帽子をかぶり、シャツの袖をまくり、運動ぐつで足早に歩いていらつしやうた姿を懐かしく思い出しました。

当時、体育館と一号館の間から榎水寮(学生寮)の周辺には、木々がたくさんありました(現在は建物が増えています)。その辺りを歩きながら、時折、木の股に手を伸ばし、小さな袋に何か入れていらつしやる姿を、何度もお見かけしました。先生が専門とされている苔を採っていらつしやうたことをあとで知りました。



平成2年校園会公開講座 榎野川河川公園にて(前列右から2人目塩見先生)

私は保育科で、先生から「生物学」の講義を受けました。夏休みの課題で、植物採集をして標本にした草花の名前を、丁寧に教えて下さった事が、つい昨日のこのように思い出されます。先生の印象は、背筋をピンと伸ばされた生真面目な雰囲気ですが、優しく微笑まれるあの顔を、私はいつでも忘れません。塩見隆行先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。(平成16年大学院健康福祉学修了)

森口覚先生の思い出

看護栄養学部助手
兼安 真弓

「毎朝 一番にコーヒーをいれる」これが森口研究室の習慣でした。それほどコーヒー好きの先生が、夏頃に「もうコーヒーはいい。おいしいと思えなくなつた。」とおっしゃいました。今思えば、この頃から体の変調に気付いておられたのかもしれない。そして、先生のお好きだったキンモクセイが満開の頃、入院されました。計報を聞き、大学に駆けつけた10月27日の朝、本館と一号館の間のキンモクセイが、駐車場をオレンジ色に染めていました。その光景が、今も心に残っています。

先生は、どんなにお忙しくて

も学生と話をする時間を優先してくださいました。実験の計画や結果の解釈といった真面目な話からはすぐ脱線してしまいましたが、アメリカ留学中の経験談や教育研究に対する真摯な考えなど本当にたくさんの方の貴重なお話を伺うことができた。先生は、常に広い視野で先々のことを考えておられ、いつも新しい研究テーマやアイデアをお持ちでした。私は細かいことばかり気にしてしまい、何をすることも手間取ってしまいましたが、先生はいつも辛抱強く待っていてくださいました。先生には、何度もう「もっと積極的に」なりなさい。」と励ましていただきました。これからも、先生の教えを忘れずに精進したいと思います。

先生のもとで社会人としての第一歩を踏み出すことができ、とても感謝しております。学部学生の頃から約六年間本当にお世話になりました。

心から「冥福をお祈り致します」。(平成17年大学院生活健康科学修了)



平成19年9月16日 第62回日本体力医学会大会 秋田にて

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

◆教職員

旧職	市原 始	H18
旧教	支倉サツキ	H18.11.14
旧教	西頭三雄児	H19.2.17
旧職	重田ミツコ	H19.3.26
旧職	石川孝子	H19.5
旧教	塩見隆行	H19.7.9
現教	森口 覚	H19.10.27

◆会員

S26児童	原田フジ子	H2
S47国文	國光悦子	H15.10.4
S31食物	小川寿万子	H17.2.18
S39食物	江藤和子	H18.4.6
S28被服	野村文子	H18.7.21
S18家事	川上和子	H18.8.8
S39保育	寺岡勝代	H18.10
S31児童	山本日佐子	H18.12.28
S23被服	越川雅子	H19.2.3
S37国文	斉藤美恵子	H19.3.3
S35保育	小林敏子	H19.3.13
S22国語	深瀬俱子	H19.3.16
S44保育	桜井順子	H19.3.23
S20家事	河村暢子	H19.6.2
S18家事	本城房子	H19.8.23
S30食物	久芳 滯	H19.8.30
S32国文	八木玲子	H19.10.27
S62被服	上阪弘子	H19.11.15
S22国語	田熊暁子	H19.12.16

お年寄りとともに

「上布田つどいの家」ハウス長

古閑 順子



私は今、2007年3月1日、川崎市多摩区にオープンした「上布田つどいの家」のハウス長をしています。「つどいの家」は3階建てで、1階はグループホームと、小規模多機能型生活支援の2つの介護保険事業施設があり、2・3階は誰もが住める共生型の賃貸住宅です。私は20年ほど前から、ワーカーズ・コレクティブ(W.Coと略します)という働き方で、高齢者のための配食活動を続けてきました。W.Coは、自ら出資して運営し、地域の人のためになる仕事を自分の責任で行う働き方です。

「つどいの家」は(株)生活科学運営の委託を受けて、W.Co「やどりぎ」が利用者の介護をしています。今、40数名の人が働いています。メンバーは介護の経験はあっても、運営ということには初体験であったり、初めて施設で働く人もいたりで、W.Co「やどりぎ」ができて1年を過ぎましたが、試行錯誤の毎日です。「やどりぎ」の理事長も兼務しています。

私は、今まで介護の仕事をほとんどしたことがありませんから、認知症のお年寄りと接していて、毎日が「えっ!」「あら!」「ほんと?」と思うことばかりです。

ある夏の日、グループホームの入居者が二人で、庭にぶら下がっているにがうりを見ながらおしゃべりしています。「ねえ、昨日見た時は、もつと大きいのがあったわよねえ。食べさせてくれるのかと思ったら、なくなってるわ。」確かに、その前日大きいのを2個収穫し、切って茹でて炒めて、ゴーヤーチャンプルを作ってみんなで食べたのでした。話している

ご本人が主役で料理したはずなんです。その夕食の時も、3回目くらいのゴーヤー料理だったのですが、何人も「初めて!」と言っていました。

慣れない介護という現場で、迷ったり悩んだりしていますが、教えてもらうこともたくさんです。元気もいただいています。今年は、還暦の歳を迎えますが、この歳で新しいことにチャレンジできるのは幸せなことです。

(昭和44年食物卒)

子供たちと音楽

山口市立良城小学校教諭

竹田 礼子



小学校教員になって早いもので、27年になる。現在は、山口市立良城小学校に勤務し、音楽専科をしながら、合唱団の活動に燃えているところである。私自

身は、特別な音楽教育を受けたわけではないが、子供たちのもつ無限のエネルギーに支えられ、すっかり音楽の世界に魅了されている。

最近の学校現場のニュースに暗い気持ちになることも多いが、いつの時代も子供たちのもつ伸びゆく力は輝いていることを感じる日々である。子供たちの歌声は、まさに期間限定の純粋さでもって、心を熱く満たしてくれる。その柔らかな感性で、あらゆることを吸収し、目の前で大きな成長を見せてくれる。ぐんぐん育つ心と身体から表現される歌声には説得力がある。「もっと歌えるようになりたい」「もっと多くのことを知りたい」「人に感謝を与えたい」「自分の力を試したい」と、一生懸命、歌っている子どもたちの目はあまりにまっすぐで、その前に立つと全てを見抜かれるようである。

私の子供時代を振り返ると、恥ずかしくて顔が真っ赤になることが満載である。でも、この時代に、本能的に多くのことを学んだ。私は、自分の子供時代に

感謝している。そして、当時の山口女子大学、文学部児童文化学科での4年間は、その後の進路を決めてくれた。

これからも、音楽の授業で、音楽会で、合唱団のコンクールや地域での演奏で、子供たちの輝く笑顔を見たい。その笑顔を支えてくださっている多くの方々と共に...

(昭和56年児童文化卒)

句碑建立

本学第1期生で名誉教授の上野さち子先生ご夫妻の句碑除幕式が、平成19年9月22日山口市香山公園にて行われました。

田を植えてはたるを待つも水の上 燎(右) 正月の雲もももいる瑠璃光寺 さち子(左)





支部発会に 寄せて

岩国支部 上田満江

お城をいただく岩国山が錦秋に彩られ始めた11月10日(土)、桜園会岩国支部会を岩国中央公民館において開催いたしました。このたび、長い間一人で世話くださった藤本芳江前支部長の御依頼を受け、上田満江(昭29被)と藤村美子(昭34国)がお引受けすることになりました。

岩国支部会の出席者は、会員の約1割、20余名でしたが、殆どの方が初対面であるにも拘わらず、すぐに親しい雰囲気包まれ、同窓生でなければ味わえない和やかな出会いとなりました。

山口より名誉教授吉田節子先生と吉村京会長の御出席をいただきまして、心強く有意義な初会式となりました。



講師のお二人から大学の近況報告があり、形は様変わりしたけれど、昭和16年建学以来の歴史と伝統は脈々と後輩の心の中に生き続けていること、伝統の管理栄養士国家資格合格率2年連続100%達成は、全国で我が母校のみの快挙と言う報告に、一同誇りと感動の気持ちでいっぱいになりました。

初会式は、会場に秋の山野草を生け、壁面と一隅には会員の作品コーナーを設け、目を楽しませるものがありました。

時間はあっという間に過ぎ、去り難い気持ちを、早速に次会を持つ事をお約束して盛会裡に終わりました。

そして、多くの会員に実情を知っていただき同窓会の輪が広がるよう努力したいと思えます。

(昭和29年被服卒)

「門司港レトロで 集いました」

北九州支部 勝野稔子

例年になく猛暑の中、8月26日に6月にオープンしたマリゴールド門司港迎賓館に、私たち山口県立大学の北九州支部の同窓生が集まりました。

総会行事、記念撮影の後、ご出席頂いた江里健輔学長は、法



人化された山口県立大学について熱く語られ、私たちも母校への思いを強くいたしました。

学部案内のビデオ映像の中の学生さんの姿に「もう一度学生生活をしたいわね」という声が生きりに上がりました。

長阿彌先輩の音頭で乾杯。ステンドグラスの素敵な部屋でフランス料理を堪能いたしました。閉会后、出光美術館で「中国・青磁の美」を鑑賞しました。

山口で過ごした私たちの青春は、だんだん遠くなつて行きますが、楽しいひと時を共有する事ができました。たくさんの方の出会いに心から感謝いたします。

ご参加頂いた同窓生の皆様、資料の準備、前日まで連絡などお力添え頂きました事務局の皆様、に心より御礼申し上げます。

(昭和37年食物卒)

平成19年度支部会開催報告

開催日	支部名	本部からの出席
4月22日	山口	江里健輔学長/吉村京会長
5月13日	柳井	三島正英副学長
6月3日	小野田	
6月9日	関東	正司明美先生
6月10日	近畿	江里健輔学長
6月17日	萩	江里健輔学長
6月20日	福岡	吉村京会長
6月24日	宇部	神武正信先生/吉村京会長
7月1日	下関	
8月26日	下松	松岡洋子先生
8月26日	北九州	江里健輔学長
10月27日	東海	田村洋先生
11月10日	岩国	吉田節子先生/吉村京会長

桜園会支部リスト (平成20年1月現在)

支部名	支部長名	支部会員数(名)
山口	矢儀保子(国文37)	1,338
宇部	徳重笑美子(保育39)	856
小野田	福山恵子(被服51)	146
下関	山野上宏江(保育42)	477
徳山	野深妻子(被服34)	355
下松	神田禮子(食物36)	301
萩	藤井郁子(国文47)	153
防府	三戸美江(国文51)	443
長門	中澤允子(被服36)	118
柳井	木村信乃(食物37)	237
岩国	上田満江(被服29)	217
北九州	高津優子(食物39)	446
広島	松原正美(国文33)	564
近畿	赤木絹子(食物45)	634
関東	大和みち子(国文45)	846
福岡	毛利縫子(国文34)	446
四国	村松幸子(食物35)	257
東海	太田和子(被服48)	128
佐賀	久保由美子(食物49)	117
大分	栗屋文世(国文44)	258

編集後記

花の便りにのせて会報をお届けいたします。第56号は、吉村京会長に「桜の森寒肥作戦」について巻頭言を、母校山口県立大学の様子を名誉会長江里健輔先生に、学生の活躍ぶりを人見英里先生にご寄稿いただきました。母校では、教職員、学生が丸となって、「存在感のある山口県立大学」をめざして頑張っているところです。「桜の森」が咲きにおう頃にも母校にお立ち寄りくださ

(安光)